

「公共事業コスト構造改善プログラム」

【 施策名：Ⅱ. 計画・設計・施工の最適化 【1】 計画・設計の見直し 施策7 】

## ダム放流設備規模の見直しによるコスト改善

工事名：湯西川ダム取水放流設備工事

概要：放流設備規模の見直し 【従来】放流管径  $\phi 3500$ 、通常ゲート → 【新】  $\phi 2000$ 、逆V字リップ付ゲート

効果 ○ 「湯西川ダムコスト縮減技術委員会」の提言を踏まえ、放流設備規模とコスト等を再検討し、最大流量を見直した結果放流管の径を $\phi 3.5\text{m}$ から $\phi 2.0\text{m}$ に縮小することが出来た。また当初計画では、放流規模に応じて3条(大・中・小)の放流設備を設置する計画であったが、大放流設備に逆V字リップ(切り掛け)付ゲートを採用することにより、高精度な放流制御が可能となり、放流設備を2条(大・小)とすることでコスト改善を図った。

■ 工事費を3,203百万円から3,140百万円に改善(改善額63百万円、改善率約1.4%)

